



白門板橋

2011. 9. 15 VOL.36

編集
発行

中央大学学会 東京板橋区支部

〒173-0035 東京都板橋区大谷口1-39-2 TEL03-3956-9054



■巻頭言

支部定時総会を終えて

支部長 石塚 輝雄

当支部の平成23年度総会は、六月十八日（金）午後六時から板橋区文化会館大会議室で行われました。

当日は、生憎の雨天にもかかわらず、七十名を超える会員と、中央大学からは遠山常任理事、学会会からは辻本副会長と長田顧問の三先生に出席をいただきました。

総会は、第一号議案・平成22年度事業報告、第二号議案・平成22年度収支決算報告、第三号議案・平成23年度事業計画（案）、第四号議案・平成23年度収支予算（案）について審議され、全会一致で各議案が承認可決されました。今年の総会で例年と異なった点は、議事後、ゴルフ、囲碁、カラオケ、パソコン等の同好会の活発な活動状況が報告方々紹介されたことです。

次に、総会に出席された辻本副会長から板橋支部に招待されたことへの丁寧なお礼と併せて、創立125周年記念事業と引き続き東日本大震災被災学生に対する経済支援の寄付依頼がありました。

なお、中央大学理事長・学員会長からは平成23年5月13日付、創立125周年記念プロジェクトへの尽力に対する礼状が当支部あてに贈られて参りましたので、会員の皆様にご報告致します。

当板橋支部の取り組むべき課題の一つに、会員の増強があります。当日総会出席者のうち、平成の卒業生は二名でしたが、いろいろ事情はありましようが、支部の活性化対策からも取り組む必要があります。

今年の「板橋区民まつり」は、十月十五日（土）・十六日（日）が予定されております。会員の増強と平成の卒業生との出会いを求めて当支部への入会を呼びかけて下さい。

支部のニュース

東日本大震災の被災地に 義援金を贈る

去る三月十一日(木)に発生した東日本大震災に、昨年の岩手・宮城大地震の見舞いに続いて、当支部から日本赤十字社を經由して義援金として金貳拾万円を贈りました。一刻も早い復旧と復興をお祈りするばかりです。

定時総会に 六十八名が集う

平成二十三年年度支部定時総会が去る6月18日(土)午後6時から区立文化会館大会議室を会場にして開催され、会員65名に来賓3名を迎えて定刻に開会。

石塚支部長の開会挨拶の後、議事に入り、定例四議案がすべて承認可決されました。(詳細は4頁の「定時総会の報告」を参照して下さい。)

議事終了後に、囲碁、カラオケ、ゴルフ及びパソコン同好会の各代表から活動報告があり、総会も終結しました。

記念撮影を経て、第二部の懇親会に移り、石塚支部長と大学から来賓として出席いただいた遠山常任理事及び辻本学員会副会長から祝辞を頂き、同委員会・長田顧問の発声で、高らかに乾杯!



▲総会での飲談風景

初参加の自己紹介の後、秋の旅行案内もあり、懇親会とはいえ貴重な情報交換の場となり、カラオケ同好会のリードで宴たけなわとなったところで、時の経つのを惜しみながら、恒例の「校歌」、「惜別の歌」を全員輪になって合唱して散会しました。

(池田)

区議選で松島道昌氏が トップ当選

平成23年4月24日に行われた板橋区議会議員選挙において、当支部の松島道昌氏(昭54年・法)(みんなの党)は、6589票を獲得、トップ当選となりました。松島氏は、東日本大震災の際には、いち早く現地に駆けつけ、救援活動を行い、被災者を激励しました。

地元の防災活動にも力を入れ、また長年にわたりお年寄りの家庭に給食を配るなど、地道なボランティア活動をしてきた姿勢が、有権者に受け入れられ、最高得票数を得たものと思われまます。(伊藤)

板橋区副区長に 安井賢光氏が再任

当支部の安井賢光氏(昭47年・法)が、7月1日付で板橋区副区長に再任されました。

副区長は、区長により議会の同意を得て選任され、任期は四年です。

(池田)

カラオケ同好会が 節目の例会を開く

カラオケ同好会が結成されて、早くも十三年が経ち、五月六日に開催された例会は、通算で25回目となる節目を迎えました。

記念となる今年の例会は、会場に横断幕を掲げ、優秀歌唱賞に加賞を設けるなど盛り沢山のにぎやかな例会になりました。



参加者も28名と過去最高の記録で会場は満席。"演歌に挑戦"のテーマで採点方式による優秀歌唱賞には90点以上を超える方が大勢いて、会場は大いに盛り上がった例会となりました。

(カラオケ同好会 佐藤 義)

母校のニュース

■中央大学の新役員決定

中央大学をはじめ、付属の
中・高等学校等を運営する学校
法人中央大学の役員（理事長・
常任理事・理事・常任監事・監
事等）が、五月二十六日決定し
ました。

理事長には、久野修慈氏が再
任され、学内からは学長をはじめ、教職員から13名、学外学員



▲久野理事長

からは久野学員会長をはじめ、
中大法曹会、南甲倶楽部、学員
体育会、地方支部等から13名の
計26名が選任されました。

■後楽園キャンパスに 新二号館が竣工

後楽園の理工学部キャンパス

に七月末新二号館が完成した。
地上9階、地下1階、延べ床
面積は約一七、〇〇〇㎡。都市環
境学科、精密機械工学科、生命科
学科、先端科学技術センターの施
設及び中央大学高等学校専用の教
室・アリーナのほか、法人施設が
設置された。

新二号館は、昨年創立125周年を
迎え、新たに一步を踏み出した本
学を象徴するグレード感の高い建
物である。



▲新2号館

■硬式野球部 春季リーグは四位

戦国東都といわれるとおり、前
回優勝した国学院大が二部に転落
するなど混戦状態のなか、中大は
島袋洋奨君の入学で投手陣が充実
したものの、投打がかみ合わず、
四位に終わりました。

しかし、島袋投手は新人ながら
二勝をあげ、防御率ではリーグ二
位の成績を残し、今後に期待をつ
なぐことができました。



▲島袋投手

（写真・中大スポーツ新聞部）

■全日本大学駅伝予選会 中大は四位で通過

十一月六日伊勢路を舞台に繰り
ひろげられる全日本大学駅伝関東
地区予選会は、四位の成績で本大
会への出場を決めました。

この予選会は、既にシード権を
持つ六校を除く、二十の大学が六
棒を争い、中大は新入生・新庄翔
太君の踏ん張りで、辛くも四位に
入ることができました。

格下と思われた青学大、帝京大
及び城西大に次ぐ順位は、三大駅
伝にわずかながら不安を残す結果
ともなりました。

（栗原）

TOPICS ① 「長幼の序」



●年長の復興大臣が年少の県知
事を被災地に訪ねたとき、知事
が遅れて会場に現れるなど礼を
失した対応に腹を立て、マスコミの取材陣を前に件の説法を展開してしまつた。そして「オフ
レコ」と、念を押す始末。

●復興大臣が立腹したのもよく
理解できるが、マスコミの前で
恥をかかせるのではなく、人を
諭すには会談を終つてからでよ
かつた。礼に基づく自己批判と
他者への思いやりが足りなかつ
た訳で、「忠恕」の精神に乏しか
つたのである。

●久々に元気な大臣が登場して
同窓生ならずとも多くの国民に
期待されていただけに、誠に残
念であり、辞任が惜しまれる。

（平山）

定時総会の報告

開催日／平成23年6月18日
会場／板橋区立文化会館

第23回・定時総会が実施されましたので、次のおり報告いたします。

■第一号議案

平成22年度事業報告の件

大野事務局長から報告があり、異議なく承認されました。

・4月3日(土) 観桜会

屋形船 (担当 区外ブ

ロック) 28人

・4月6日(火) ゴルフ同

好会 22人

・5月7日(金) カラオケ

同好会 (二回) 延56人

・5月19日(水) パソコン

同好会 (七回) 延63人

・5月27日(木) 幹事会

グリーンホール 35人

・6月15日(火) ホームペー

ジ委員会打合わせ 7人

・6月26日(土) 総会

会員63人

来賓6人 合計69人

・7月22日(木) 『白門板橋』

編集会議ルノアール 7人

・7月29日(木) 学員会協議

員総会 (駿河台) 3人

・8月19日(木) 常任幹事会

レストランサンイチ 30人

・9月28日(火) 『白門板橋』

発送作業 常盤台町会事

務所 10人

・10月19日 ゴルフ同好会

鴻巣カントリークラブ 22人

・11月21日(日) 中大125周年

記念レガッタ大会出場

19人

・11月23日(火) 125周年記念

式典 多摩キャンパス 3人

・11月27(土) ～ 28日(日)

秋の旅

・群馬県猿ヶ京温泉 17人

・12月6日(土) 忘年会

料亭「よし邑」(担当 志村

坂下ブロック) 45人

・1月22日(土) 新年会

区立文化会館 56人

・3月16日(月) 『白門板橋』

発送作業 文化シャッター

研修所 10人

・3月25日(金) 常任幹事会

グリーンホール 24人

(以上)

補足



◆秋の旅で宿泊した「猿ヶ京ホテル」のおおかみ・持谷靖子さんは、民話の語り手としても有名な方で、群馬に伝わる民話を夕食後宿泊した客に語って聞かせてくれました。

出来たての美味しいお餅を食べながら、乳飲み子を抱えた若い女性から年配の酔客にいたるまで、一心におおかみの民話を聞きいつている姿を見て、日本には今でもこのような心温まる交流があるのか・・・と心を打たれた旅でした。

(三宅)



▲三国街道「匠の里」にて

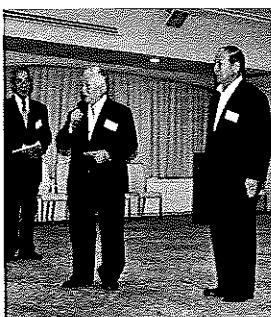
TOPICS ②

春の叙勲で眞壁史朗氏が藍綬褒章を受章

平成23年春の叙勲で、当支部の眞壁史朗氏(昭34・商)に藍綬褒章が授与されました。眞壁氏は、長年にわたり保護司として、犯罪や非行者の更生保護に尽力され、その功績が評価されて、この榮譽を付与されました。

おめでとございます。

総会の席上にて、石塚支部長からも表彰されました。



▲眞壁史朗氏(右)

なお、褒章には【紅・緑・黄・紫・藍・紺】の六種類があり、藍綬褒章にはあい色の綬(リボン)が付きます。社会事業などで、公衆の利益に寄与した人に、国から与えられる記事です。

(伊藤)

第2号議案

平成22年度 収支決算報告書
自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
【収入の部】

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 摘要. Lists financial items like 総会費, 役員会費, 常任幹事会費, etc.

第2号議案

平成22年度 収支決算書
自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
【支出の部】

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 摘要. Lists financial items like 総会費, 役員会費, 常任幹事会費, etc.

第2号議案-2

平成22年度 貸借対照表
平成23年3月31日現在

Table with 4 columns: 科目, 摘要, 金額, 負債・剰余金の部. Shows assets and liabilities.

上記の通りご報告いたします。
平成23年3月31日

中央大学学員会 東京板橋支部長 石塚 輝彦

会計担当 (臨時代理) 越水 勝彦

同 (臨時代理) 佐藤 運司

監事報告書

監事3名は板橋区支部の平成22年度会計について監査の結果、決算及び貸借対照表の会計処理が適正に行われており、決算数値は確定である事を認めます。

平成23年5月9日
中央大学学員会 東京板橋支部

監事 岡上 次次

同 中野 謙雄

同 栗原 三良

決されました。
大野事務局長から、次のとおり事業計画の説明があり、満場異議なく、拍手をもって承認可決されました。

第三号議案
平成23年度・事業計画(案)

* * *

- 一、定時総会及び懇親会の開催
日時 6月18日(土)
会場 区立文化会館
- 二、親睦会の開催
観桜会 4月2日開催の予定でしたが、東日本大震災発生のため中止(注)
- 三、他支部との交流
(都区内支部連絡会等)
- 四、同好会活動の促進
(4同好会が活動中)
- 五、広報活動
会報『白門板橋』の発行
ホームページの更新
- 六、会員増強運動

* * *

第四号議案
平成23年度・収支予算(案)

* * *

中止に決定いたしました。
◆3月16日『白門板橋』発送の際、佐藤(道)・平山副支部長、監事、幹事長、事務局長、ブロック長等の役員による緊急の打ち合わせが行われ、その結果「今年の観桜会は、3月11日発生の東日本大震災により被災した方々の心情を察すると、お酒を飲んで騒ぐ気持ちには、とてもなれない」との理由により

* * *

第四号議案
平成23年度・収支予算(案)

* * *

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 摘要. Detailed financial statement for the fiscal year.

監事: 岡上 次次, 中野 謙雄, 栗原 三良

第二号議案
平成22年度・収支決算報告並びに会計監査報告の件
左表のとおり収支決算報告(収入の部・支出の部)が徳永会計幹事からなされ、引き続き、それに対する監査報告が、中路監事により行われて、満場これに異議なく、拍手をもって承認可決されました。
A 区民まつりに支部として参加(抽選があります)
B ブロック毎の増強促進
七、ホームカミングデー参加
徳永会計幹事から左表の説明があり、引き続き、石塚議長により場内に諮られ、満場異議なく拍手をもって承認可決されました。

告知板

■秋の旅行は、 信州安曇野に決定

支部恒例の秋の旅行は、左記の要領による、信州・安曇野の温泉です。

日時 11月12日(土) ~ 13日(日) (二泊二日)

宿泊 安曇野 穂高ビューホテル(白門OBの経営する温泉リゾートホテル)
費用 二九,〇〇〇円
(26名~30名の場合)
参加者数により、費用は若干異なります。

(詳細は別紙)

申込 案内書兼申込書によりお申し込みください。
幹事 近藤 正・三宅正代
川崎力男・鈴木 裕
申込期限 10月12日(水)

◆多くの方々の参加をお待ちしております。

■忘年会

忘年会の日程が次のとおり決まりました。

日時 12月10日(土)

午後六時より

場所 大山町30-11

好味来(中華)

費用 六,五〇〇円

*追ってご案内いたします。

■新年会

新年会(平成24年)の日程が次のとおり決まりました。

日時 1月21日(土)

午後六時より

場所 区立文化会館
大会議室

費用 七,〇〇〇円

*追ってご案内いたします。

■会費納入のお願い

会費は当支部を運営する上で貴重な財源です。

今年度の支部会費をまだ納めていない方は、納入くださるようお願いいたします。

年会費は、三,〇〇〇円です。

(会計幹事 徳永)

■新入会員



(氏名) (ブロック)

○梅宮行雄 区外

○田代威昭 区外

○川上一郎 志村・坂下

○相場有二 区外

ご入会おめでとうございます。仲良くやっていきましょう。

■退会会員

○神野鎮雄 赤塚

○田中耕男 区外

○水口一宏 区外

○吉岡和子 常盤台

○工藤泰則 大山・大谷口

○木村信彦 常盤台

* * *

■訃報

▼立川誠二郎 (昭53年・文)

(平成22年12月 逝去)

▼細田六郎 (昭28年・法)

(平成23年3月 逝去)

▼古澤道夫 (昭30年・法)

(平成23年8月 逝去)

謹んでお悔やみ申し上げます。

(大野)

○●○白門出身

大相撲界最新情報

* *

相次ぐ幕内力士の引退で、本学出身の関取は、豪風ひとりになってしまいました。が、名古屋場所では千秋楽に勝ち越しを決めました。

△豪風(尾車部屋)

本名・成田 旭 (平14年卒)

西前頭 4枚目八勝七敗



△片男波(元関脇・玉春日)

十四代目親方襲名

本名・松本良二 (平6年卒)

平成20年9月引退

協会主任。

△大鳴門(元大関・出島)

本名・出島武春 (平8年卒)

平成21年7月引退

協会審判委員。

(池田)

■白門出身作家シリーズ

木内 昇文学 拾い読み

『漂砂のうたう』

著者／木内 昇

発行所／株式会社集英社

著者プロフィール

一九六七年七月東京都生まれ。
一九九〇年三月

中央大学文学部卒

出版社勤務を経て独立。イン

タビュー誌「Spotting」を主宰

し、単行本、雑誌などでの執筆

や書籍の編集を手がける。

小説作品に「新選組幕末の青

嵐」「新選組裏表録地虫鳴く」「茗

荷谷の猫」「浮世女房洒落日記」

がある。

二〇〇九年第二回早稲田大学

坪内逍遙大賞奨励賞を受賞。

二〇一〇年第144回直木賞を受

賞。

*

本書は、昨年受賞した直木賞

作品だが、テーマは郭社会の男衆の生業を描いたもので異色と言える。



主人公の定九郎は、長州出身の元武士の出だが、どこでどう道からはずれたのか、口入れ屋に伴われて根津の遊郭に就業した。

彼の仕事は、見世の角口に立つて客の見張り役をする（立ち番）で（妓夫）のように客引きや用心棒をする訳ではない。楼内の雑用いっさいを引き受ける（仲どん）の上に位置するだけである。

日本の遊郭の歴史は古く、鎌倉時代にさかのぼると言われるが、江戸の遊郭は、一六一七年（元和三）江戸各地に散在していた遊女屋を日本橋葺屋町に集めたのに始まる。明暦の大火に

全焼し、千束日本堤下三谷に移し、新吉原と称して官許を得ている。

官許を得た遊女屋をメジャーとするなら、マイナーな私娼家も数多く散在した。根津権現がある門前に娼家があつて繁昌したと言われ、明治中頃に洲崎へ移された。

本書の舞台となる根津の遊郭は幕末から明治維新にかけて、江戸がいや日本が近代国家へ大きく変革を遂げた一連の過程の中で、明治政府が行った廃藩置県・秩禄処分・地租改正などさまざまな改革が断行されたが、遊里は、大変革の影響を何一つ受けることなく、治外法権の特殊な社会として存続した。そして、男衆の生業も旧態依然として遊里の歴史を刻んで行った。定九郎は、唯一渡世人を過つて登楼させてしまうドジを踏んだばかりに郭の中でさえ、階段を踏みはずし、（立ち番）を続けるを得なかつた。

世相に時代に、周りの人間に

奪われ続けたのが自分の辿つた道であるはずだったのに、旧態依然とした自分がそこにあつた。

ひとりになって定九郎は、川に目を落とす。川底ではきつと今も砂粒が静かに力強く動いているだろう、その息吹きを腹の奥に感じ取っている（略）

*

終章近くまで読進んでこの筆致に私自身の目を止めた。そして、作品名である『漂砂のうたう』の意味合いが分かつたような気がした。

参考文献に落語に関するもの六冊、『遊女の文化史』等遊郭に関するもの八冊、その他『民権と憲法』等明治維新のバックグラウンドを形成する情報収集にも膨大なエネルギーを費やしている。ポツと出の新人でなく、著者のプロフィールにあるキャリアが十分生かされた読みのある作品である。（平山惟美）

■難航した新町名

双葉町ができたのは、昭和三十一年四月一日です。それまでは板橋町十丁目の一部でした。

このあたりは昔、武蔵国豊島郡下板橋宿根村といわれた地域で、ここが板橋宿の本村にあたります。

慶長九（一六〇四）年、宿場が作

地名の由来…②⑧

「双葉町」の巻

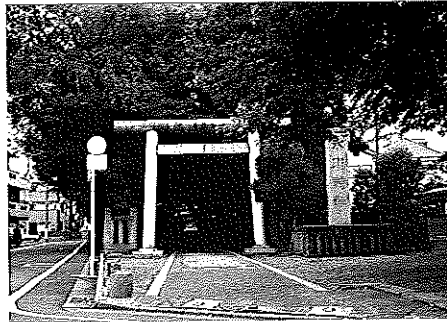
られるとき根村の一男、二男が出て行つて形成されたといわれています。双葉町が出る時は大変でした。何しろ昔からの歴史がある町なのでプライドが強いのです。

年配の人は下板橋宿の本家本元だという気位があり、郷土愛から旧小字名の根村にこだわり、新しく付

ける新町名にも何か縁のある名前を主張しました。しかし若い人達とことに移住してきた商人や工場主には根村反対の意見が出て収拾がつかなくなつてしまいました。

そして町名決定の権限を区に一任することにしました。

区では町名設定の委員会を作り、



協議を重ねて双葉町とすることにしました。それは根村にこだわった方も、そうでない方も、これからは仲良く大きく育つようと願いを込めて決めたということです。

こうした事が今でも影響しているのでしょうか、今回、神社、二人の町会長さんに取材を申し込んだので

すが、三人共体よく断られてしまいました。

■一市三区を流れる川

町の南側を流れる石神井川について少し説明します。川は小平市鈴木小学校を谷頭として東流し、練馬区で富士見、三宝寺、石神井の各地の水を合わせ、板橋区では田柄川を合流させ、北区に入り堀船三丁目と隅田川に注ぐ、全長二五キロの長さを持っています。

沿岸は古くから開けており、旧石器時代以来の遺跡が多く、茂呂遺跡は有名です。近世では流域四十余村の灌漑用水として利用され、板橋の根村（双葉町十四）に堰が設けられました。

また、町内には上流より向屋敷橋、久保田橋、山中橋、新西原橋、根村橋、中根橋、双栄橋、西堰橋、堰の上橋と九つの橋があり、このうちの五つは、旧板橋町大字下板橋の字名で、久保田、山中、西原、根村、堰の上がそうです。

「根村の水川様」と慕われた水川神社には、御歩射（オビシヤ）と呼ばれる行事がありました。的に鬼を

画いて十三本の矢を射って、射られたのは神事占いに用いられ、後で石神井川に流されたそうです。

（文・写真とも 中三川孝幸）



編集後記

●今年の夏も猛暑が続いて、東日本大震災で被災した多くの方々には仮設住宅や避難先で苛酷な夏を送つたに相違ない。復旧途上の被災地に、いま我々にできることは、些少でも義援金をおくることだろう。金額の多寡ではなく、大事なことは被災者を思いやる心を伝えることだ。

●女子サッカーW杯を征したナadeshiko・ジャパンは、男勝りの大和魂を持った精神力の強いチームで彼女等の活躍は、被災地の人々に大きな希望と激励になった。秋の七草の一つである「撫子」の異称は大和撫子で、日本女性の美称でもある。国民栄誉賞を贈った首相は、何を思っただろう。（平山）